

生浜地域誌

第71号

2024.9.30

発行

NPO 法人

ちば・生浜

歴史調査会

電話

080-5387-

2592



活動報告

体験 講座名

「布ぞうりづくり」

快適ライフのお手伝い

7月13日(土)

9:30~11:30

旧生浜町役場庁舎1階

講師 白井昭代(本会会員)

参加者 9名



活動報告 体験講座名

「まが玉づくり」7月28日(日) 9:30~11:30 講師・萩

原邦明(本会会員) 参加者 11名 旧生浜町役場庁舎1階

…自分でアクセサリーをつくってみました…

四角いロウ石を紙やすり等でけずってオリジナルな「まが玉アクセサリー」をつくりました。磨けば磨くほど、

まるで宝石のようにツヤがでできます。「石を削るのが楽しかった」と参加の小学生女子の感想。

歴史の記録でははじめは「曲玉」と書かれており(古事記)、その後「勾玉」と表記されているようです(日本書紀)。「勾玉」の「勾」という文字は曲がっている様子を意味する漢字です。

Q:何のために?

A:古代の日本における装身具の一つで、祭祀の時に身につけた。

当時は人が身につける装飾として用いられた。

Q:いつごろから?

A:縄文時代後期頃から古墳時代くらいに作られた装身品です。

Q:なぜこんな形に? A:勾玉の頭部の部分は太陽を表し、尾の部分は月を表していると考えられ、太陽と月が重なり合った形は宇宙を崇拝していたともされています。

令和6年度 賛助会員紹介

・浜野郵便局長 千葉綾子様・叶親重信様(浜野町)・生実町町内会様・田村敏孝様(黒砂)

行事案内

歴史散歩

「浜野を歩く」 コース(2時間半)

6000歩程度 雨天決行

11月17日(日) **申込締切 11/9 土**

- ・旧町役場集合 9:15
- ・塩田天満宮
- ・浜野川に沿って生浜高校へ
- ・浜御蔵の見学
- ・浜野の河岸
- ・本行寺見学
- ・諏訪神社見学
- ・浜野会館でDVD放映「海苔のできるまで」視聴。 **定員30名**

講演 歴史講座①

浜野の古墳『浜御蔵』について」

講師:塚原勇人先生(千葉市埋蔵文化財調査センター)

申込締切 11/2 土

日時:11月9日土曜日 9:30~11:30 **定員30名**

場所:生浜公民館(千葉市中央区生実町 67-1)1階

講演 歴史講座② 「浜野の神社」について」

講師:今井公子先生(本会会員) **申込締切 10/26 土**

日時:11月2日土曜日 9:30~11:30 **定員30名**

場所:浜野会館(千葉市中央区浜野町 1242-1)

申込はこちら…NPO 法人ちば・生浜歴史調査会
(旧生浜町役場庁舎管理受託者)

電話 043-265-8816(火・木・土曜日 9:30~16:30)

上記日時以外は、080-5387-2592へ(伝言・ショートメール可)

旧生浜町役場庁舎千葉市中央区浜野町1290-3(火・木・土 9:00~16:30 開館)

南生実町にある

やつるぎじんじゃ
八劔神社の

「神楽」を見学して

2024 年 7 月 27 日 (土)
に南生実町の八劔神社で奉
納された神楽を見学したの
で報告します。 午後 6 時
半より途中休憩を挟み 2 時
間の神楽奉納で貴重な千葉市の無形文化財を見
学させていただきました。

八劔神社は社伝によれば日本武尊（やまとた
けるのみこと）が東征のとき、この国に起こっ
ていた国境の争いを平定し、改めて国境を定め
たことに感謝して、土地の人々が東国鎮護の神
として祭ったのが始めとされています。



一度、7 月 27 日の祭礼の日に地元の氏子により奉納されています。（千葉市指定無形民俗文化財
「八劔神社の神楽および神楽書について」の千葉市教育委員
会の説明板による。）

神楽の前に南生実町外からの見学者もいる（筆者も町外）
ということで上記説明板記載の内容に加えた概要の説明があ
りました。神楽師は八劔神社の氏子の長男が、神楽師連で組
織する「八劔講」に加入して代々習得・継承してきました。
戦後、若者の継承者が減り、継承に危機感をもった若者約 1
0 名が昭和 46 年（1971 年）に当時 50 歳代の師匠をお願いをして教えを請い、伝授・継承をして
現在に至っているとのことでした。当時の若者もすでに 70 歳代となっているとの説明でした。

神楽は、正面・左右に向かって同じ舞をするので 3 回同じことをしているように見えるが、間
違ってはいないとの説明もあり、初めて見る者には参考になりました。

見学には多くの子供達も参加しており、地元の貴重な文化財を継承していってくれたら良いと
思いながら帰途につきました。（本稿は生浜地域誌第 15 号 2010 年 9 月 1 日発行の内容と一部重
複しています）（文責：うちかわ）



本社に伝わる神楽は、享保元年（1716 年）の
社殿再建の際に上総一宮玉前（たまさき）神社
の社人が巫女舞（みこまい）、湯笹舞（やざさ
のまい）、猿田彦舞（さるたひこのまい）等か
ら構成される十二座神楽とよばれる舞を奉納し
たものを、地元の人々が受け継いできたもので
す。三方吹き抜けの神楽殿で舞手がひょっと
こ・おかめ・狐面等を被って黙劇風に舞う、い
わゆる江戸神楽の流れをくむ舞であり、2 年に

